

第5章 かとり協働プログラム

1 かとり協働プログラムの目的

1-1 市民、事業者及び市の協働の必要性

少子高齢化の進行に伴う人口構造の変化は、市税の減収、社会保障経費の増大といった市の財政運営に影響を及ぼすことが予想され、環境分野においても限られた経営資源の効率的な運用のためにも「選択と集中」による行政経営が求められることとなります。

このような状況のなか、限られた財政状況のもとで市の良好な環境状態を維持していくためには、これまで以上に市民、事業者及び市の協働による取組の強化が必要です。

本市では、これまで環境の維持・保全に関わる人材の育成や市民活動団体との連携強化などに取り組んでいますが、参加者の固定化や高齢化の傾向が見られるなど、次世代の環境保全活動の担い手の発掘・育成が急務となっています。

1-2 かとり協働プログラムの目的

かとり協働プログラムは、これまで環境保全活動に参加したことがない市民、事業者の興味を引きつけ、全ての市民、事業者が環境保全活動の担い手となるべく、子どもから大人までが気軽に環境保全活動に参加できる取組を、市民、事業者及び市の協働により展開する事業です。

「香取市市民協働指針（かとりの風）」のように市民、事業者、市が相手の立場で、お互いを尊重する当事者主義のもとに、常に現場に出向き、そこに軸足を置く現場主義を前提とした環境保全活動を展開していきます。

本計画では「最初の一步」としての事業展開イメージや基本的枠組みを示していますが、引き続き、企画（Plan）⇒試用実践・実証（Do）⇒問題検証（Check）⇒改善（Action）のPDCAサイクルを繰り返しながら、各事業の充実を図っていくものとします。

コラム：香取市市民協働指針（かたりの風）

地方分権の進展や少子高齢化など、社会環境が急激に変化している中、住民ニーズも様々な分野に広がり、地域課題も複雑多様化しています。

このようななか、住民サービスを提供し続けるためには、今まで以上に住民の皆さんの持つ能力や地域が持っている活力を、市と共にまちづくりに生かしていただく市民協働の取組が必要であることから、本市では前総合計画の基本理念を「市民協働による暮らしやすく人が集うまちづくり」と定め、この総合計画を着実に実現するための運営方針、この愛する地域を未来に委ねていくための考え方として、2009年3月に「香取市市民協働指針（かたりの風）」を策定し、この指針を基本に、各地域で市民協働による活動が展開される仕組みづくりとして、「香取市まちづくり条例」を制定しました。

香取市市民協働指針（かたりの風）では、子どもたちの笑い声が聞こえ、お年寄りの知恵が活かされ、心豊かに暮らしていくことのできる地域を残していくため、互いが尊重され、共に築き、共に守り育むことができる地域をつくっていく、そのために地域ぐるみで取り組む協働の原則を地域の約束として整理しています。

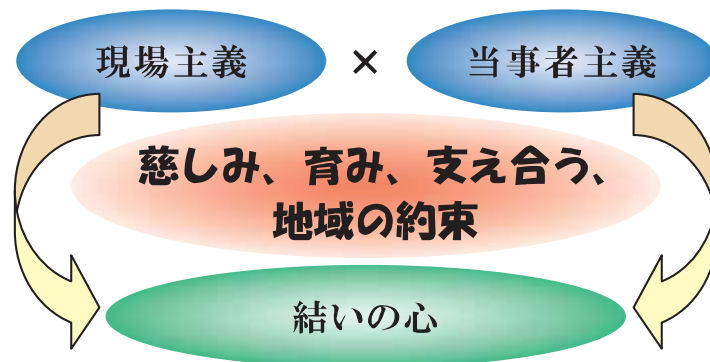
地域の約束の行動理念

「慈しみ、育み、支え合う、地域の約束」

（現場主義、当事者主義のもと、結いの心を大切に育みましょう。）

香取市市民協働指針（かたりの風）

地域それぞれの想いを、ひとすじの風につむいで香取じゅうに吹かせよう



現場主義、当事者主義のもと、結いの心を大切に育みましょう

自分の地域に誇りが持てなければ、協働（地域ぐるみ）でまちづくりを推進していく気運は醸成されません。この地域を、この暮らしぶりを持続させたい、もっと心地良くしていきたいと願うことから地域ぐるみの取組である市民協働を大切にしていきます。

2 かとり協働プログラム

プログラム 1

香取の生きもの調査

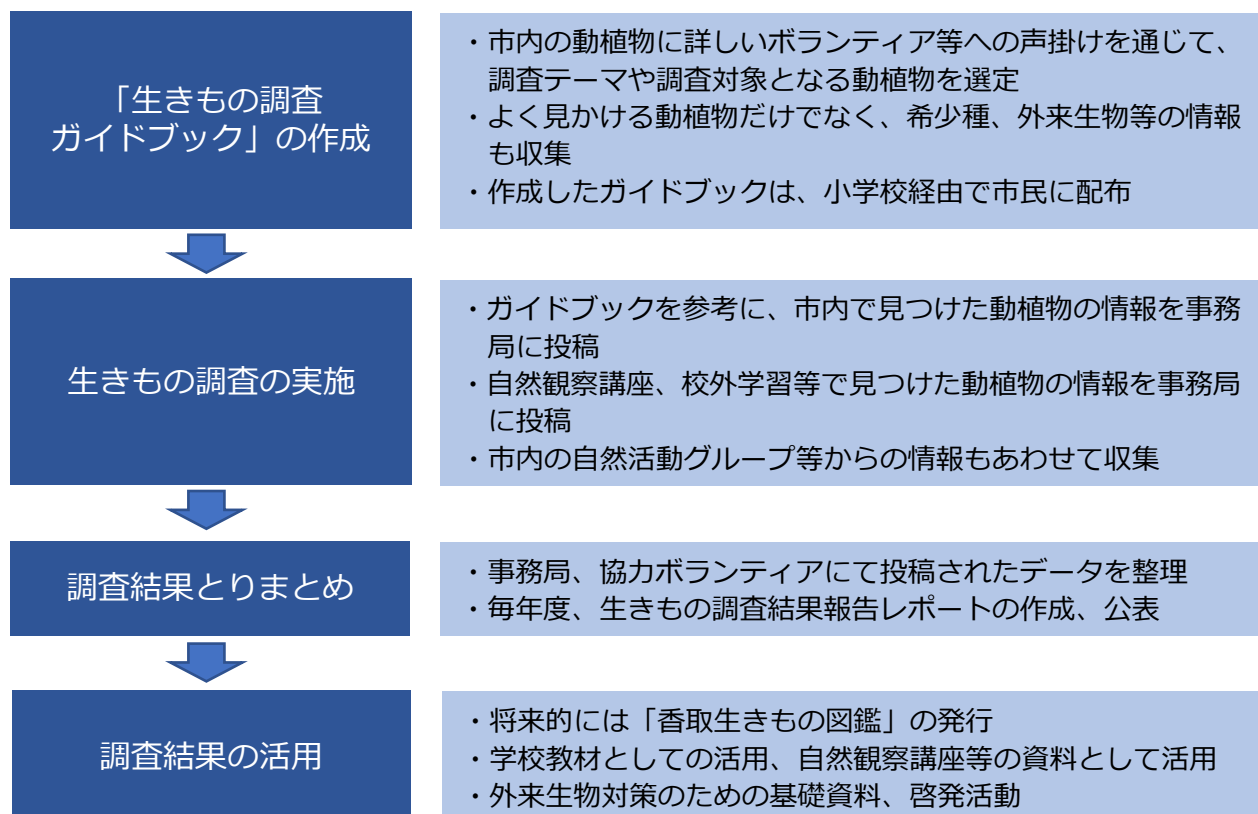
香取の生きもの調査の概要

香取の生きもの調査は、市内の自然環境の現状把握や生物多様性に対する市民の意識高揚に資することを目的に、一般の市民から市内に生息・生育する動植物の情報を募る継続的な「動植物調査」です。

具体的には、調査対象となる動植物を写真入りで紹介した「生きもの調査ガイドブック」を広く公表・配布し、市民に発見日時・場所、写真などの情報の投稿をお願いするものです。

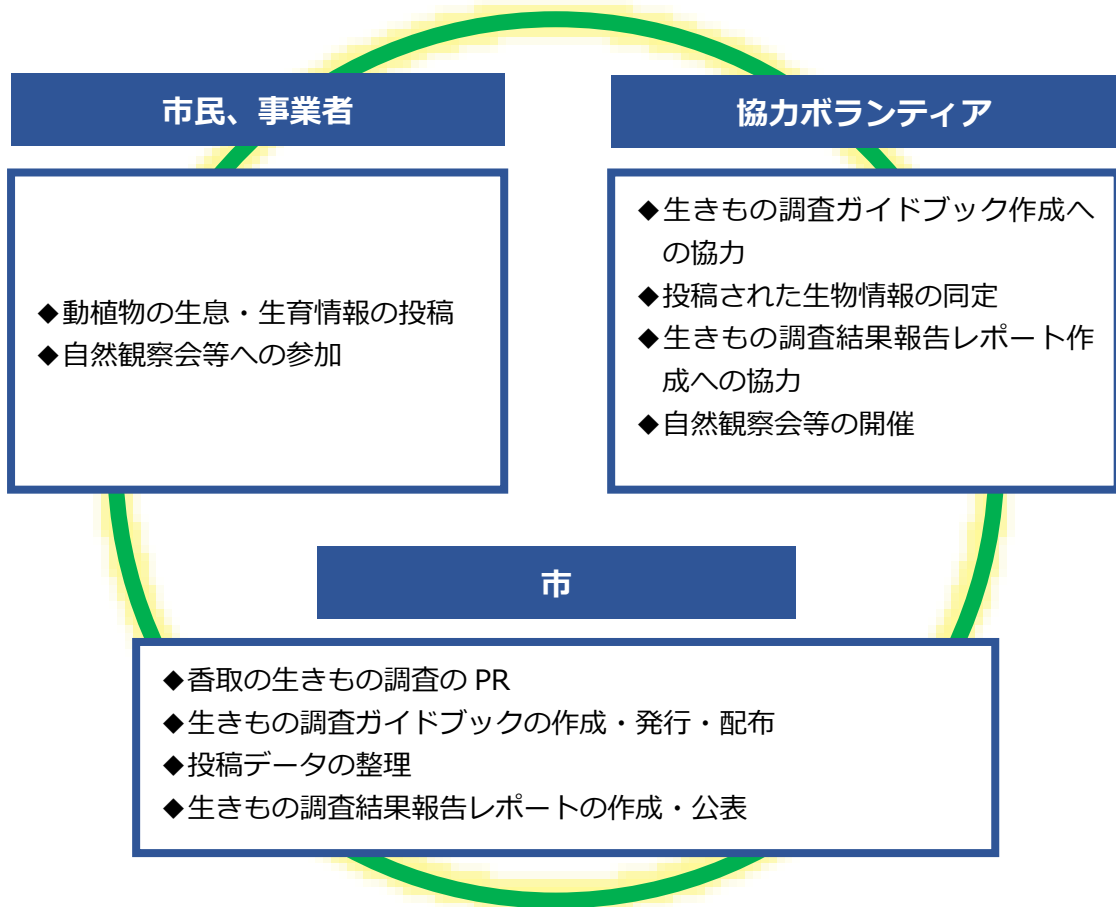
投稿された情報はデータベースに蓄積し、学校教材や自然観察講座等の資料としての活用のほか、希少動植物の保全対策や外来種対策などにも役立てていくことを企図し、将来的には「香取生きもの図鑑」の発行を目指します。

香取の生きもの調査の展開イメージ





香取の生きもの調査の役割分担



プログラム2

小中学校への環境出前授業

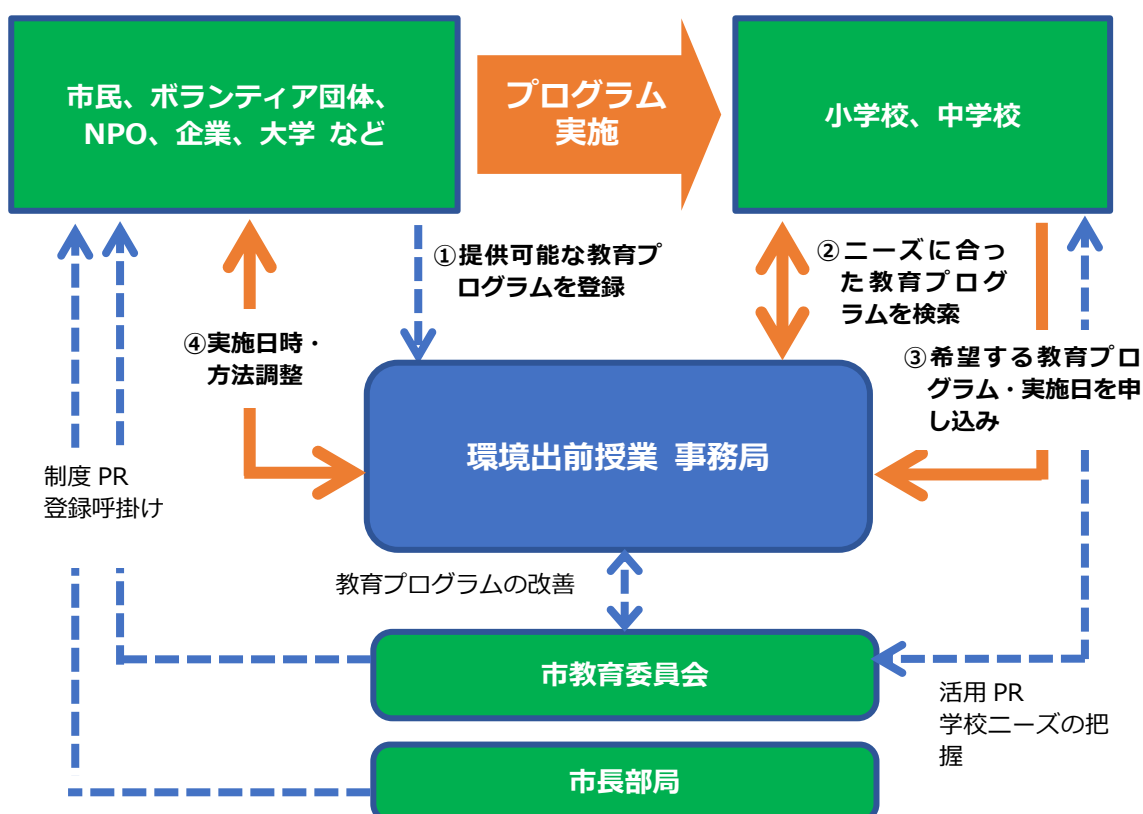
小中学校への環境出前授業

小中学校における環境教育・環境活動は、教育の場であると同時に、地域コミュニティの中心的な機能も担っている学校を拠点とするため、地域全体への環境活動の波及効果が期待できます。

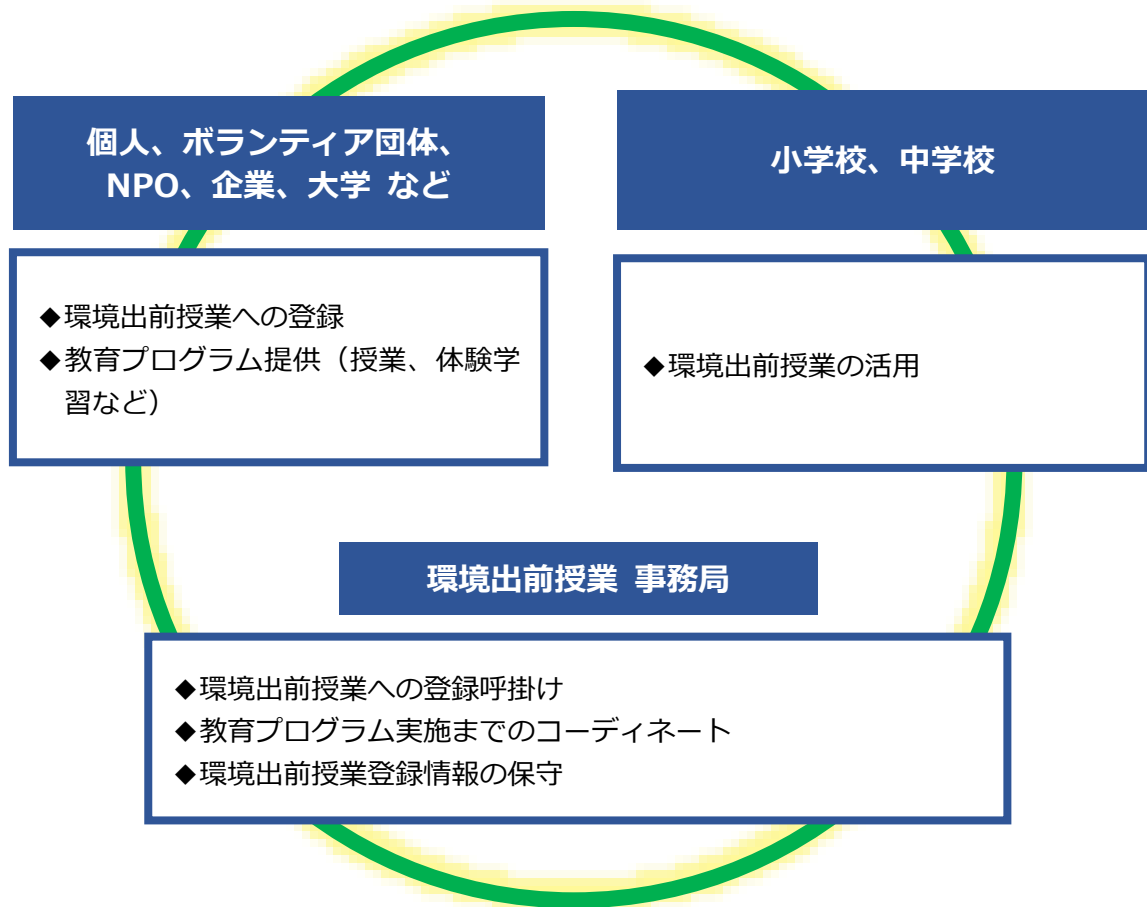
本市においても各学校において環境教育を実施していますが、企画から実施までを全て学校現場で行うには、専門的な知識・情報の習得や授業準備の面で先生への負担が大きいのが実情です。

そこで、市民、ボランティア団体、NPO、企業、大学等が、環境保全に対する知見を活用した教育プログラムを用意し、学校はニーズにあった教育プログラムを選択するマッチング事業を推進し、学校現場の負担軽減と環境教育の充実を図るものです。

小中学校への環境出前授業の展開イメージ



● 小中学校への環境出前授業の役割分担



プログラム3

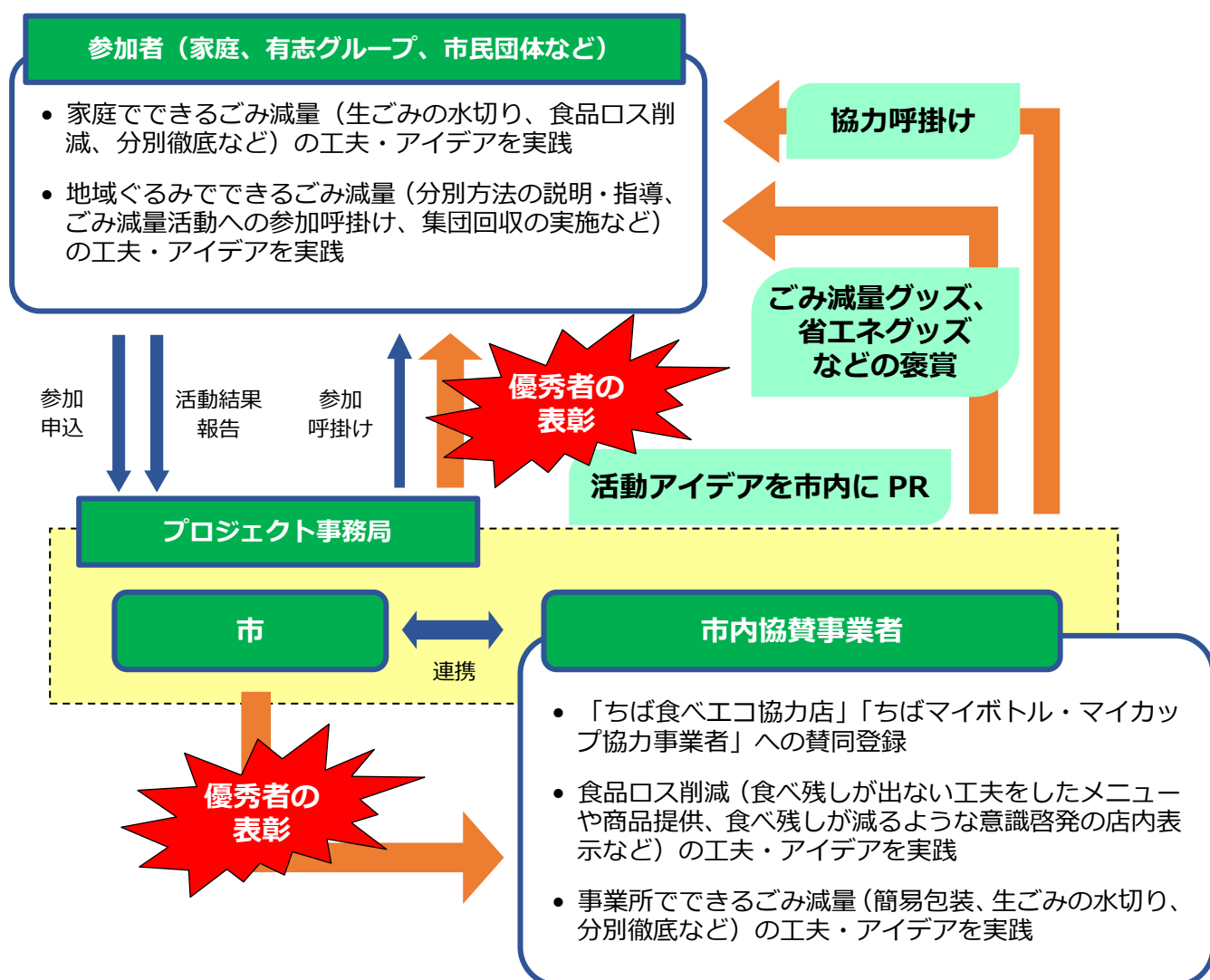
ごみ減量プロジェクトの展開

本市では、市民や事業者に対して3Rに関する普及・啓発活動、資源ごみの集団回収の推進などの取組を継続的に実施してきました。こうした取組により、再資源化量は増加しましたが、ごみの総排出量は増加している状況です。

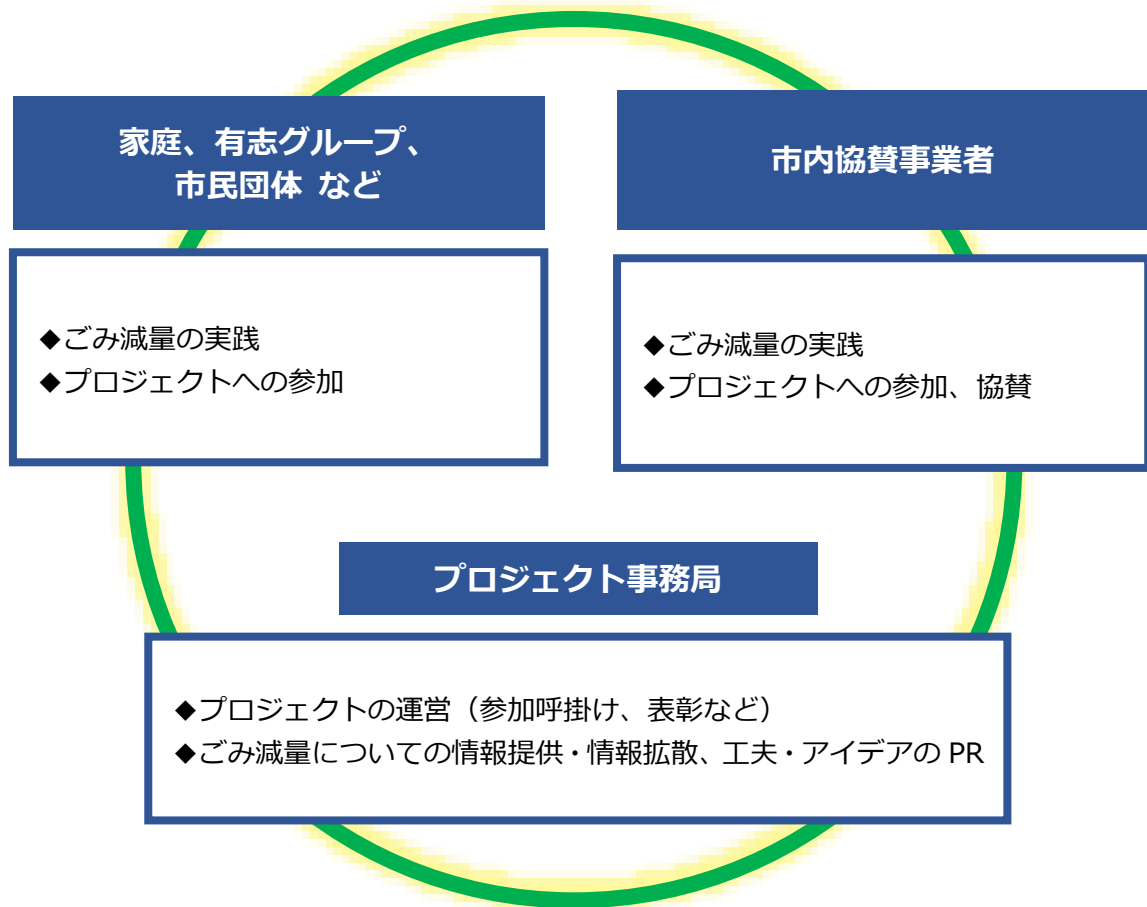
ごみ焼却による環境への負荷や最終処分場の残容量を考慮すると、さらなるごみ減量に取り組んでいく必要があります。

「ごみ減量プロジェクト」は、日常の暮らしの中で経済的負担を伴わずに工夫をこらすことで、ごみの減量を目指すもので、ごみの発生抑制と分別の徹底による資源化を図り、焼却処理されるごみの削減に向けて、市民や事業者と連携しながら、「ごみの発生」に対する気遣いを醸成します。

ごみ減量プロジェクトの展開イメージ



ごみ減量プロジェクトの役割分担



プログラム4

COOL CHOICE 運動の展開

本市では、低炭素社会実現のため、省エネ・低炭素型の製品、サービス、行動など地球温暖化対策のあらゆる賢い選択を促す国民運動である COOL CHOICE 運動に 2014 年 10 月に賛同登録しました。

そこで、COOL CHOICE 運動の普及に向けて、市民、事業者及び市の協働による COOL CHOICE のイベント、PR 等を通年にわたって展開します。

既存のイベントを活用した COOL CHOICE の PR・周知のほか、本市の地域特性を生かしながら、子どもから大人まで誰もが楽しく参加できるイベントの企画・立案、実施を推進します。

COOL CHOICE 運動の展開イメージ

参加者（家庭、事業者、市民団体など）

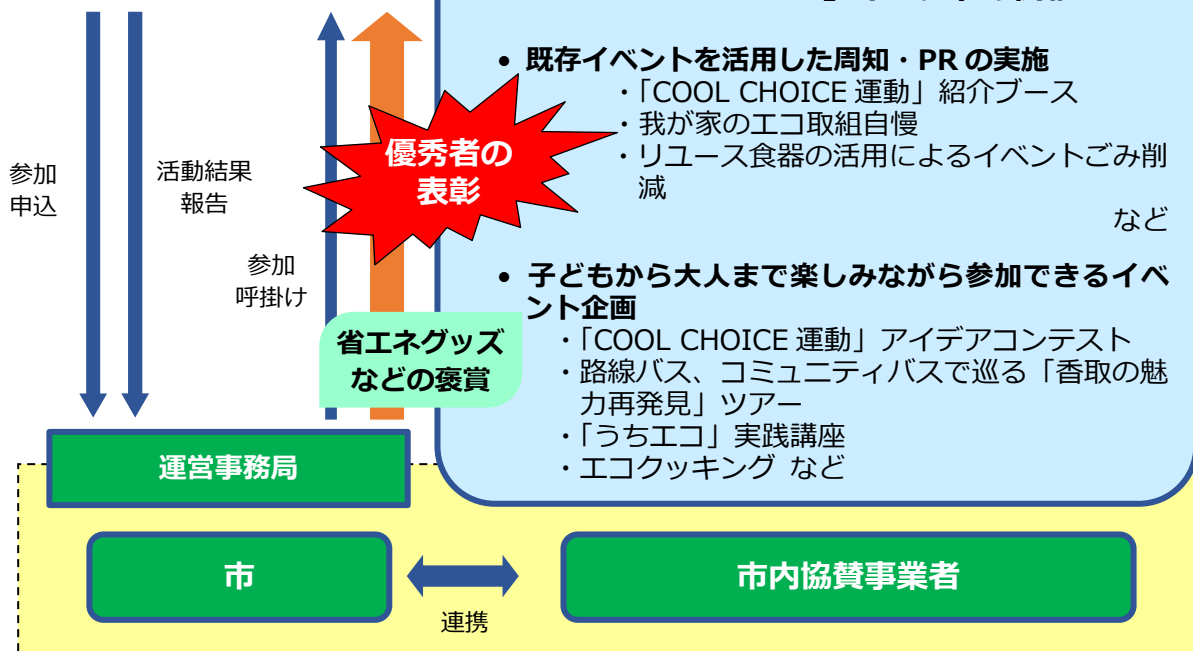
- COOL CHOICE 運動の賛同登録
- 家庭、事業所、地域ぐるみでできる省エネ行動の工夫・アイデアを実践
 - ・クールビズ（冷房時の室温 28℃など）・ウォームビズ（暖房時の室温 20℃など）
 - ・省エネ機器の買い替え（LED 他、省エネ機器への買い替え促進）
 - ・エコドライブの推進
 - ・エコ住宅の普及促進

「COOL CHOICE」イベントの開催

- 既存イベントを活用した周知・PR の実施
 - ・「COOL CHOICE 運動」紹介ブース
 - ・我が家のエコ取組自慢
 - ・リユース食器の活用によるイベントごみ削減 など
- 子どもから大人まで楽しみながら参加できるイベント企画
 - ・「COOL CHOICE 運動」アイデアコンテスト
 - ・路線バス、コミュニティバスで巡る「香取の魅力再発見」ツアー
 - ・「うちエコ」実践講座
 - ・エコクッキング など

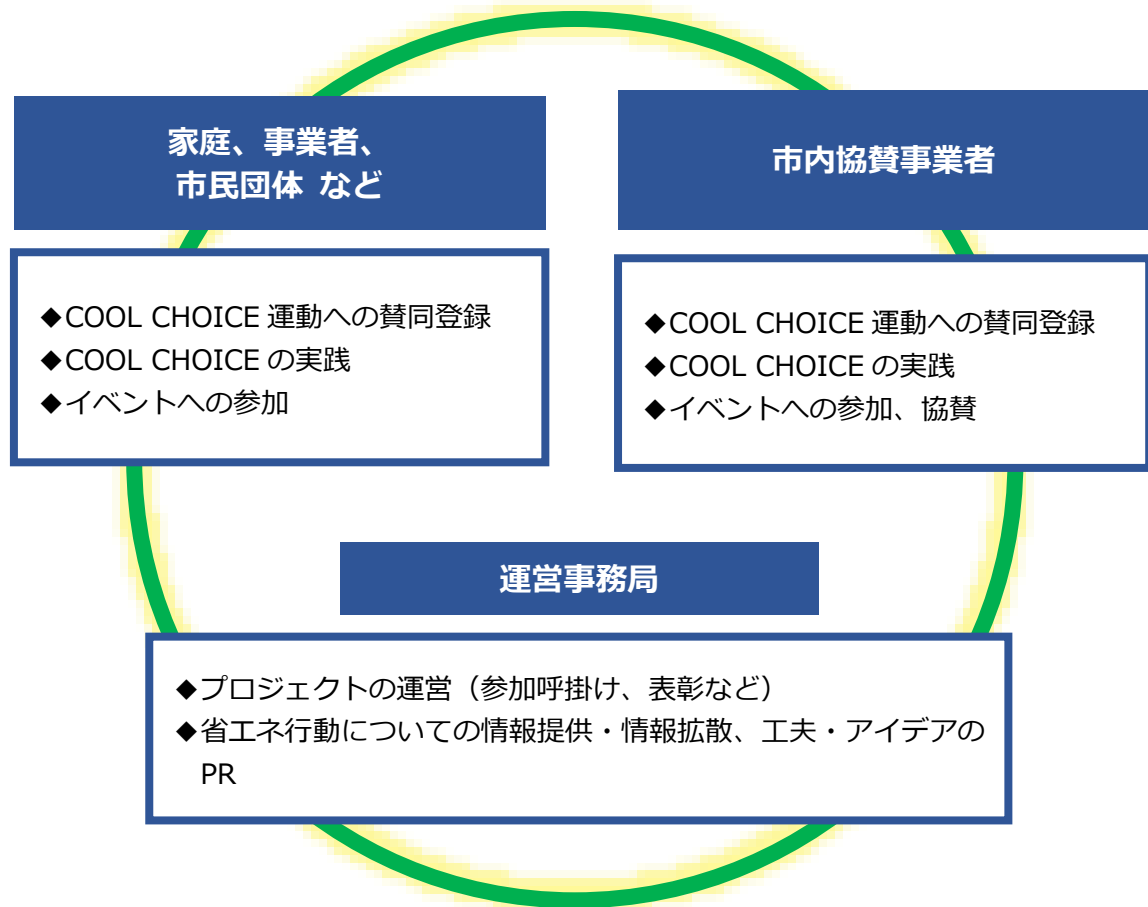
優秀者の表彰

省エネグッズなどの褒賞





COOL CHOICE 運動の展開の役割分担



コラム：環境懇談会の開催

本計画の策定にあたり、地域ごとに環境の現状を把握するとともに広く市民の意見を計画に反映させるため、地区別に環境懇談会を開催しました。

次世代にすばらしい香取市を引き継ぐため、地域で残しておきたい自然、改善したい環境など、目標とする環境像について話し合いを行いました。

■いただいた主なご意見

ごみ減量について

- 分別の強化
 - ・個人・家庭での分別意識の向上
- 広報による情報提供
 - ・資源ごみの処理後の再生状況が不明
 - ・分別方法の周知徹底が必要
- 食品ロスの削減 など

河川の浄化・水循環について

- 河川の水質
 - ・河川水質の悪化を実感している
 - ・水質について情報提供が必要
- 対策
 - ・排水路の整備
 - ・合併浄化槽への切り替え促進 など

自然環境について

- 自然環境の保全
 - ・自然環境の豊かさに市民は気づいていない
 - ・里山の保全が景観づくりにつながる
- 市民団体による活動
 - ・市と地元住民との連携が重要
 - ・参加者の高齢化 など

樹林等の管理について

- 耕作放棄地
 - ・少子高齢化により増加
 - ・管理不足（担い手不足）
- 道路上に伸びた樹木
 - ・管理不足（担い手不足）
 - ・管理を働きかけることが必要 など

■懇談会開催の様子

